



研修医日記

作成者：芦田 雄汰朗（2年次）

悲しきかな、時代と逆行していると感じているとき、「芦田雄汰朗」という個性を感じる。最初の数十秒のみで音楽が判断される（と聞いたことがある）世の中で、歌が始めるまで何十秒もある音楽に最近ハマっている。インストゥルメンタルを好んで聴いていたことも関係があるのだろうが、このようにして時代に取り残されていくと思われる。今更直しようはなく、指を引っ掛けて抗うしかない。勿論、自分の趣味はその限りではなく、一人で楽しんでいけば良い。

反対に、年齢を重ねての変化はどこかで聞いたことのあるような変化ばかり起こっている。苦手だった食べ物が好きになる、お酒で酔いやすくなるなど、加齢に伴ってであろう変化を自覚する。食べられるものが増えるのはそのまま人生の幅が広がった気がして嬉しいが、体が動かなくなることはそのまま将来が心配になる。スポーツをしても、パフォーマンスより怪我をしないかに気が向いてしまう。終われば達成感よりも安心感が勝ってしまい、目的を見失っている。

個人、周囲の環境は目まぐるしく変化していく。個人の中では自分の好きなように進んで行けば良いが、周囲を巻き込む場合はその限りではないはずだ。境界が曖昧になるのはよくあるが、誰かと共有できる楽しさとそれに伴う欠点を考えていかなければならない。とりわけ、押し付けになることは避けなければならないと思う。このように、頭の中でグルグル考え、更に遅れていくのだろう。

私が書いてきた駄文も今回で終わりらしい。振り返ると、難しさの中に少しの楽しさがあった。SNSが流行している今日にわざわざ書く必要があるかは分からないが、「発信する」ことは面白いかもしれない。普段手の内を見せないように生きている側からすると、このような機会は少ないためか、人一倍そのように感じる。

最後に、研修医日記を読んだという声が届くことがある。嬉しさと恥ずかしさが同時に来たが、モチベーションが上がったのは言うまでもない。これまでご覧いただいたことに感謝を申し上げ、私の研修医日記を終わることとする。

※日記の作成日と当ページへの掲載日は異なる場合があります。